青研かわらばん

発行所　長岡鉄工業青年研究会
発行責任者　永井邦幸
編集責任者　市川光
編集者
毛利聡一・大竹啓之・門倉侑大
倉品英行・清水貴裕・鳥越太郎
中村隆史・韮澤誠吾・萩野浩
長谷川孝
事務局　新潟県長岡市坂之上町２丁目１番１号
長岡商工会議所ビル５Ｆ
長岡鉄工業青年研究会
TEL 0258－36－6982
印刷所　㈱北越時報社　長岡市住吉２丁目５番13号

新年度を迎えて

長岡鉄工業青年研究会
平成二十七年度会長
高木繁樹

平成二十七年度、長岡鉄工業青年研究会会長を務めさせて頂くことになりました、株式会社タカキの高木繁樹です。一年間、宜しくお願い申し上げます。

当会は本年度で四十四年目を迎えます。この歴史ある当会の会長を務めさせて頂く事、歴代の諸先輩方の後を任される事の責任の重さを痛感し、身の引き締まる思いであります。また、今日まで当会が継続してきましたのは、関係諸機関の皆様からの御支援、諸先輩方からの御教授、そして会員一人ひとりの御協力の賜物です。この場をお借りしまして深く感謝申し上げます。

さて、現在の我々を取り巻く産業界の状況は、大幅な円安・原油安という相場の変動を背景に、大企業を中心とした持続的な株高から、明るい兆しがようやく見え始めております。しかしながら、それらの効果的な要因が地方経済へ本格的に波及される時期は未だ不透明です。我々中小企業は、消費税増税・調達コストの上昇・人手不足など、数々の課題を抱え企業の存続が危ぶまれる時期が続いており、個人個人で自己を磨くだけでは、乗り切る事が困難な局面を迎えております。

そのような状況を踏まえ、本年度の当会は、『人と人を結び、企業・青研を未来へつなぐ』をテーマとして掲げ、人と出会い新たな考え方を知る事の大切さや、人と人を結ぶ事により、相互で未来を構築できる事を、会員の皆様に体感して頂きたいと考えております。当会を通じて出会う方々との絆や会員同士の絆を深め、「企業を未来へつなぐ」為の一年、「青研を未来へつなぐ」為の一年としたいと考えております。

一．涉外事業　地域貢献・交流事業
「人と人を結ぶ」

本年度もＯＢの皆様、趣旨に御賛同頂いた皆様、そして会員企業の御協力のもとで行われている「屑鉄集め」を、地域貢献事業として継続致します。更に、基金を寄付させて頂いている福祉施設様との交流を渉外事業として行います。施設の皆様との絆を深め、屑鉄集めの意義を会員の皆様に再認識して頂きたいと考えております。

また、地域交流事業としまして、中越地区・長岡地域において、特にものづくりに関わる大学・団体と交流し親睦を図り、情報交換や技術の向上につなげたいと考えております。八月一日には、長岡まつり前夜祭神輿渡御に、諸先輩方より受け継ぐ伝統のオリジナル神輿と纏で参加致します。絆を深めて結束強化した当会を存分にアピールして参ります。

二．人材育成事業
「企業を未来へつなぐ」

平成二十七年度の人材育成事業は、「企業を未来へつなぐ」という指針を掲げ活動致します。企業としての命題は、会社を未来に向けて存続させる事です。日頃の業務、目先の納期対応・コストダウンに追われるうちに、木を見て森を見ずとなり、命題を忘れ本末転倒になる事もしばしばです。一歩立ち止まり、企業の命題について考え、我々が引き継ぐ会社を存続させる為の知識を得る事を目指し、それに基づいた講演会・企業視察等の人材育成事業を展開致します。また、人材育成事業を通じ学んだ事を、企業の代表者・後継者候補・幹部候補などの会社の中心に立つ会員同士が、「自社を発展させ未来へつなげたい」という共通テーマに対して、お互いに話し合い考える事が出来る関係構築を目指します。

三．会の結束強化事業
「青研を未来へつなぐ」

今年度は、会員同士の絆を深める事を念頭に置き、「会の結束強化」を通年での事業として位置付けたいと考えております。「会員の青研活動への参加意欲向上」と、「事業参加後の満足度向上」を目指した事業展開から、会員同士が絆を深める機会を作っていきます。

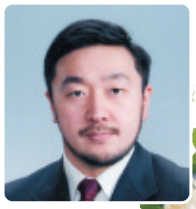
当会を通じて、同世代の同じ志を持つ仲間達と絆を深め切磋琢磨する事は、会員本人の成長につながります。その成長を自社に還元する事で会員企業が未来へつながります。会員企業が未来へつながる事は、この長岡鉄工業青年研究会が未来へつながる事になります。このプラスのサイクルの根源にあります、「会の結束強化」を今年度の主題としたいと考えております。

以上の事業を柱として、当会の運営を行ってまいります。皆様の御指導・ご鞭撻を頂きますとともに、尚一層のお力添えを頂けたら幸いに存じます。

一年間宜しくお願い致します。

一年を振り返って

長岡鉄工業青年研究会
平成二十六年度会長
永井　邦幸



今から八年前の話です。一日職場で誰とも話さずにいれば幸せだという位の引っ込み思案の青年がおりました。青年は社長に言われるまま長岡鉄工業青年研究会という会に入会しました。青年はその会で様々な鉄工界の仲間や偉大な先輩に出会い、多くの事業を体験しました。あがり症克服セミナーや、財務・経営セミナーなど様々です。他にも色々な人の話を聞き、多くの先進的な企業を見学しました。気がつくと青年は、引っ込み思案ではなくなっていました。それどころか人と出会う事に有難味を感じ、会話を交わす事によって世界が広がっていく事を実感できる様になりました。また、青年は会の活動を通じて、自分にできる事を一生懸命やれば他の人からの信頼が得られるという至極当たり前の事を改めて実感しました。入会から八年の年月が過ぎて、青年は会長となり、自分が体験した事を改めて発信したいと考えました。

当会が企業にもたらす最大のメリットは、参加会員の人間的成長にあります。その成長を通じ、企業は優れた後継者・幹部候補、新たなものづくりのネットワークや営業機会を獲得できます。それらを象徴的に表し内外へ発信する言葉として「粋意気とした企業人」という言葉を掲げました。前提として我々は鉄工のプロフェショナルです。それを如何に魅力的に伝えられる人間として成長するか。その事をテーマとして各委員長より一年間の事業を設計して頂きました。素晴らしい行事が次々と企画され、会員の皆様のご参加とご協力の結果、意義のある成果を得る事ができました。役員の皆様、全会員の皆様、また関係各所の皆様にこの場を借りて改めて感謝申し上げます。

我々中小企業こそが日本の底力であり、その企業の若手たる我々こそが元気を持って誇るべき技術を発信し未来へ繋いでいかねばなりません。今後とも仕事に青研に活き活きと頑張って行きましょう。一年間有難う御座いました。

委員会事業報告

総務委員会

委員長　市川　光

今年度の総務委員会は例年の事業である、四月の卒業式、八月の納涼会、十二月の忘年会、二月の臨時総会・合同新年会、そして四月の定期総会に加えて、会員数の確保に向けて当会を紹介するチラシの作成、資料・記録の一元管理化を行いました。

当会紹介のチラシの作成につきましては、年度当初より永井会長の指示の元、卒業された会員企業様への六月の配布を目標に作成に取り掛かりました。永井会長自らデザインされたインパクトのある表紙に、当会の目的・事業内容などがまとめられたチラシが予定通り五月に完成し、卒業された会員企業様のほか、関連事業所、各企業様にも配布させていただきました。チラシの効果もあり、今年度は六名の方から入会していただくことができました。来年度以降もこのチラシを活用して入会を募っていただきたいと思います。

資料・記録の一元管理化は、当会四十五周年を迎えるに当りまして、緒先輩方が残してきた様々なデータを一元管理することで、過去に当会がどのようにして事業を行ってきたのかという記録が残り、次年度以降の活動に活かせるということを目的に行いました。具体的には事務局に専用のハードディスクを置き、各個人で保管しているデータを随時ハードディスクにコピーしております。次年度以降も継続していただきたいと思います。

今年度の総務委員会はメンバーに恵まれ、各事業を無事行うことが出来ました。

また、会の正式事業ではありませんが総務委員会のみでのゴルフコンペを行うなど、団結力と行動力のあるメンバーが揃い委員長としてはありがたい限りでした。この場を借りてお礼申し上げます。ありがとうございました。

最後に、会員の皆様の多大なるご協力のおかげで一年間活動することができました。本当にありがとうございました。

◆卒業式

平成二十六年四月十二日かも川別館にて卒業生十一名の卒業式が厳かに行われました。

卒業生の皆様からは、現役会員に向けて感謝と激励の思いを込めたお言葉を頂きました。

懇親会では、絶えず卒業生を現役会員が取り囲み、思い出話に花が咲いておりました。柿川土手の夜桜の中、恒例の胴上げも無事に終了し、卒業生を送り出すことが出来ました。

参加者　四十九名　（市川　光）

◆納涼会

八月二十三日に「いさり火　長岡店」にて中越鋳物青年研究会様と合同で納涼会を行いました。

両研究会初の合同納涼会となりましたが、多くの方から参加いただき開催することができました。

昨年のおもてなし講座や、相互扶助の精神が活かされ、終始和やかで本年度テーマの〝イキイキ〟とした様が見て取ることができた納涼会でした。

参加者　三十八名　（萩野　浩）

◆忘年会

十二月十二日に「七福」にて忘年会を行いました。

年末の忙しい時期にもかかわらず、多数の参加者により盛大に開催されました。

本年度テーマに掲げた〝粋・意気（いき・いき）〟とした企業人〟の通り、活発に親睦を深められ、一年を無事に締めくくることができた忘年会でした。

参加者　三十五名　（倉品　英行）

◆臨時総会・新年会

平成二十七年二月六日、長岡グランドホテル様にて臨時総会・新年会を行いました。

臨時総会では次年度の会長、副会長、各役員の選出が行われ、承認されました。

中越鋳物青年研究会様との合同で行われた新年会は多数の御来賓、歴代会長より御出席いただき盛大に行われました。

御来賓の皆様より期待を込めた温かい激励のお言葉を頂戴し、新年度に向け一層気持ちが引締められた新年会となりました。

参加者　六十六名

（大竹　啓之・中村　隆史）

◆第四十三回定期総会

平成二十七年四月十一日　かも川別館様にて行います。

研修委員会

委員長　七里　大樹

『人材育成事業「粋意気とした企業人」』

永井会長より頂いた課題に対して、本年度の研修委員会は、六月セミナーにて『意気』を十一月の講演会にて『粋』をそして一月の研修旅行では『粋・意気とした企業人』をテーマに掲げ三部構成での計画を立案し、実行致しました。

六月のセミナーでは、『そのルーツである誇るべき鉄工を外部へ向けて自信を持って発信していくために、より魅力ある企業人としての成長』『良い技術を持っていてもそれを誰かに伝える時には魅力あるプレゼンテーションが必要』との会長の思いを形にすべく開催致しました。そしてセミナーの中で講師の森塚先生より『一番大切なものはその物を好きであること』とのお言葉があり、仕事だけでなく家族や地域、そして鉄工青研での活動でも同じことが言えるのではないかと思います。

十一月の講演会では株式会社大菱計器製作所代表取締役島津様のご助力を頂き、株式会社由紀精密大坪正人様を講師にお迎えし、ご講演頂きました。年齢も我々と同世代ということで世界を舞台に活躍されている大坪様のお話は、自分も負けたくないといった刺激を感じる様な大変有意義なものであったと感じます。そして講演会には入会を希望している方々をお招きし実際に鉄工青研とはどのような活動をしているのかを見て頂きました。

その結果として、入会を頂いた方もおられます。外部への発信の重要性を再認識させられました。

最後に一月の研修旅行では、締め括りとして講演会の題材としても紹介された碌々産業株式会社様を訪問。微細加工技術に全精力をあげ、まさに『混じり気のない突き詰めたもの』を実践されている企業様でした。そして二日目には江戸の粋を現代に伝えるアトリエ創藝館様にて提灯作成を通じてその思いを勉強させて頂きました。

この一年、研修委員長を務めさせて頂き、皆様からのご助力を頂き勉強させて頂いたことを感謝致します。反省や後悔がないといえばウソになりもっとできたのではないか？と思うことも多々ありますが、今後の事業に生かして参りたいと思います。

本年度、会長、副会長をはじめ会員の皆様そして頼りない委員長に力を貸して頂いた研修委員の皆様にあらためて感謝いたします。一年間ありがとうございました。

◆セミナー

『意気！魅力あるプレゼンテーション』

平成二十六年六月二十日、今年度のテーマである「粋意気とした企業人」から、セミナー『意気！魅力あるプレゼンテーション』をまちなかキャンパス長岡で開催いたしました。講師には株式会社広報しえん様からご紹介いただいた森塚儀典様をお招きし、レクリエーションを交えながら他者との話し方のコツ、プレゼンテーションをするにあたって一番大切なのはその物を好きである事等を御講話いただきました。毎日の生活の会話の中で少しでも気を使うことでスムーズに思いを伝えられるということがわかり、すぐにでも実践したくなる内容でした。

最後に、多くの皆様からご協力を頂きましてとても実りある事業になったと思います。有難うございました。

参加者　二十一名　（阿部　修平）

◆講演会

『粋』～混じり気のない突き詰めたもの～

平成二十六年十一月二十八日、今年のテーマである「粋意気とした企業人」から、講演会『粋』～混じり気のない突き詰めたもの～を長岡グランドホテルで開催いたしました。

講師に、株式会社由紀精密社長　大坪正人様をお迎えし、ご講演いただきました。今回は大坪社長をご紹介いただきました島津社長と新規入会候補者五名の計六名の方にオブザーバーとして参加していただきました。

大坪社長の大学時の研究、就職後の企業活動、由紀精密に入社してからの経営戦略や世界に向けてのマーケティング、さらにこれからの目標や未来へ向けての足取りなど、一時間半という時間ではもったいなく感じる程大変中身の濃い講演会でした。

最後に多くの皆様よりご協力・ご参加いただき、とても実りある事業になったと思います。大変ありがとうございました。

参加者　三十名（内、オブザーバー六名）

（田原　裕巳）

◆研修旅行

今回訪問させていただいた碌々産業㈱様では、創業者・野田正一氏の経営方針、「工作機械ハ生産ノ手段デアッテ、其目的デハナイトコロノ特殊ノ利用材デアリマス」の精神の元「碌々魂」を感じました。精密加工を誰でも可能にするということで温度管理等、全てが徹底されていて常にお客様の利益につながる機械を全力で製造する熱い思いに心動かされました。

江戸文字「アトリエ創藝館」様では、大相撲の番付にも使用される江戸文字を自らの手で提灯に書き込む作業を体験いたしました。一文字一文字に「想い」を乗せて書かれた提灯はどれも輝いた作品に仕上がったと思います。

今回の研修旅行を通じて「魂」や「想い」から自らの仕事に誇りを持っている「粋意気とした企業人」の精神を感じていただけたのではないかと思います。

最後に、平日を含めた行程でご多忙の中、十二名の方々に参加していただき心より深く感謝申し上げます。

参加者　十二名

旅行日程　平成二十七年一月三十日～三十一日　（吉原　範宴）

実行委員会

委員長　小林　史幸

今年度の実行委員会では、四つの事業を行いました。まずは四月に卒業生追い出しボウリングと題しまして追い出しボウリングコンペを行いました。今回、卒業生をチームリーダーとした団体戦も取り入れ、卒業生と現役会員が一丸となって楽しめるように企画いたしました。七月のリフレッシュイベントでは、ファミリーバーベキューを開催いたしました。会員とそのご家族の皆様には、ゆったりとした楽しいひと時を過ごせてもらえたのではないかと思っております。残念ながらアクシデントもありましたが、会員の皆様の迅速なる対応とご協力のおかげで、その場を乗り切ることができたのではないかと思います。九月には屑鉄集めを実施いたしました。集まった浄財を十二月に福祉施設にクリスマスプレゼントとして贈呈いたしました。屑鉄をご提供してくださいました企業様におかれましては大変感謝しております。十月は鉄工青研ＯＢ交流ゴルフコンペを行い、ＯＢの皆様から多くのご参加をいただきました。今年度の初めから中越鋳物青年研究会様との打ち合せのもと、自由参加の合同ゴルフ練習会を開催しておりました。その成果なのか、鉄工青研現役会員で今年ゴルフデビューしたメンバーからもご参加いただけたことをうれしく思っております。

今回、実行委員会にはじめて所属し、尚且つ委員長と言う大役で委員会を運営してまいりました。非常に良い経験をさせていただいたと思います。この一年間を省みると天候には恵まれませんでしたが、会員の皆様のおかげもあり各事業ともやりとげることができたのだと思います。

最後に実行委員として一年間尽力いただきました委員の皆様、そして委員会の枠を越えてご協力いただきました会員の皆様に深く感謝いたします。

一年間ありがとうございました。

◆卒業生追い出しボウリング

平成二十六年四月二十六日、ポップボウル長岡店にて追い出しコンペを開催いたしました。今回はコンペ五名、表彰式七名の卒業生に参加していただきました。卒業生の五名がチームリーダーとなって現役会員と団体優勝を目指して競技を行いました。競技は利き手と利き手ではない手のそれぞれで行い、久しぶりのボウリングということもあり、卒業生と大いに楽しむことができました。その後の表

彰式も三十二名参加していただき、卒業生を盛大に送り出すことができました。

参加者　ボウリング　二十八名
　　表彰式　三十二名
個人優勝　吉原　範宴　君
団体優勝　チーム・ヤマグチ（山口良和君、大宮丈範君、加藤芳夫君、山本友紀君）

（小林　史幸・野本　新太郎）

◆リフレッシュイベント　ファミリーバーベキュー

七月二十七日㈰リフレッシュイベントとして、ファミリーバーベキューを開催いたしました。

あいにくの天候ではありましたが、後半は雨もやみ、終わり頃には子ども達から「楽しかった」という声も聞こえてきましたので、会員とそのご家族の皆様には、ゆったりとした楽しいひと時を過ごせてもらえたのではないかと思っております。また、参加された皆様には、実行委員会の枠を超えて、ご協力して頂いたことを感謝いたします。

最後に、開催中青研メンバーが火傷をしてしまい、保険の大切さ・事前準備の大切さを痛感いたしました。トラブルが何も起こらないのが一番ですが、安全には十分に配慮していきたいです。

多くの方に参加して頂き、会員及び家族の交流も深めることができ、良かったと思います。

（石田　剛士）

◆屑鉄集め

今年度も九月二日（クズの日）に、青研参加者二十名、屑鉄提供協力企業三十五社にて行いました。

会員減少の中、前日の作業を含めると作業参加延べ二十九名、トラック延べ十一台、そのうち一台がユニックというご協力は、これまでをはるかに超えました。これが九十万円という結果につながりました。これもひとえに、屑鉄集めに対するご理解、ご協力を賜った協力企業・団体及び、回収作業を行っていただいた青研会員の皆様のおかげです。

当日は暑い中での回収作業でしたが、事故・怪我等なく、無事、作業を完了できました。皆様、誠にありがとうございました。

（真島　洋紀・小沼　啓）

◆秋季ゴルフコンペ

十月五日㈰に長岡カントリー倶楽部にて秋季ゴルフコンペを開催致しました。

毎年恒例となっている今事業ですが、今回は青研コンペとしては珍しく日曜日の開催となりました。ＯＢ会員から七名、現役会員の皆様からも多くの参加を頂けたことを大変嬉しく思っております。あいにくの雨となってしまいましたが、ゴルフ、懇親会を通して楽しく過ごせたと思います。ありがとうございました。

（富川　和則・小笠原　昭範）

◆福祉・児童養護施設寄付贈呈式

三施設とも、あたたかく迎えていただきました。柿が丘学園では、ダウン症や、自閉症などにより、同年代の子供と接することが困難な子供さんと、ゲームをして楽しく過ごさせて頂きました。もみの

木工房では、障害を持ちながらも元気に働く利用者の作業を見学し、大変活気のある現場でした。双葉寮では、両親と一緒に住めない子供さんと接し、今年小学一年生の子供さんにスキー板と学習机を贈呈、喜んだ笑顔に元気を頂きました。

（小林　史幸）

まつり委員会

委員長　皆川　政男

本年度は長岡祭り前夜祭神輿渡御に参加し二十一回目の年度として、担ぎ棒を新調させて頂き装いも新たに渡御を行いました。青研オリジナル神輿は幻想的で華々しく、長岡鉄工業をアピール出来たのではないかと思います。更なる十年、二十年を迎えられる意味も込めまして、より多くの方々からの神輿渡御参加へ力を入れて参りました。

総勢一一二名の参加があった中、卒業生二〇名、一般参加者六十九名と多くの皆様より御参加していただきました。参加された卒業生の方々からも昔を思い出し血気盛んに担いでいるように見受けられ、年々減少傾向にある会員数の中、来年度以降も参加人数確保の光明が見出せたのではないかと思います。

大きなトラブルもなく無事終了できましたのは、会長をはじめとする三役の皆様や各委員会の参加者・卒業生の皆様など、神輿渡御にご参加・ご助力くださいましたすべての方々のお陰と心より感謝致しております。

併せて卒業生および関係各所の皆様より例年と変わらぬご支援を賜りまして、協賛金にて神輿渡御の運営・修繕等をさせて頂きました。又神輿渡御当日にお心遣い・お声掛け頂きましたこと、重ねて御礼申し上げます。

渉外委員会

委員長　加藤　芳夫

今年度の渉外委員会では、委員会の方針でもあった外部の方々に鉄工業をもっとよく知ってもらいたいという点に力をいれて活動して参りました。

一つ目は、ハイブ長岡プランター保守、点検です。平成二十六年六月一日に開催された全国植樹祭の式典に伴い、二十五年度に納品したプランターの表面磨きを行いました。平日にもかかわらず会長、役員、委員の方々のおかげで無事作業を終えることができました。

二つ目は「安全技術セミナー」です。今年度は長岡技術科学大学の木村哲也准教授よりご紹介いただいた「独立行政法人労働安全衛生総合研究所」の清水尚憲様より安全に仕事をするための知識について御講話をいただきました。清水様からの御依頼により、会員企業訪問を兼ねた見学会も行いました。そこでは、現場での安全を確保するための心構えや理解をより深めることができました。お忙しいにも関わらず、会員企業様のおかげもあり、わかりやすく安全の大切さを再認識することが出来たセミナーとなりました。大変ありがとうございました。

三つ目は、長岡造形大学での講演会です。昨年に続き、学長の和田裕様をお招きし、今年度のテーマでもある「粋」をもとに「デザインに潜む粋」といった内容で御講話をいただきました。学長自身がこれまで出会った建造物、絵画、バイク、車などが例に挙げられ、デザインという観点からものづくりのお話をいただきました。古いものと新しいものにはそれぞれに「味」があり、その中でも質を見分け、「粋」な部分を見出す眼を養うことが重要だと感じました。日常生活にも常にアンテナを張り情報を集めることでアイデアは生まれてくるのだと思い、私たちの業界にも大きなヒントをいただけたお話でした。

四つ目は十一月八日、九日にアオーレ長岡にて開催されました「豪技長岡ものづくりフェアー」に出展いたしました。展示物「青研ロボ」の製作に始まり、多くの会員の企業やＯＢ企業様のご協力があり製作が出来たことを改めてお礼申し上げます。当日を迎え、二日間で三百九十名の方々に参加してもらうことが出来、怪我もなく大盛況となりました。渉外委員会として「ものづくり」を行う行事の中で私は、親子で取り組み楽しむ姿、完成した時の子供の笑顔をみると、将来私たちの仕事はもっともっと明るい未来が待っているものだと感じています。

最後に、製作に関わった会員企業様、忙しい中参加してくださった役員、委員の皆様、深くお礼申しあげます。

◆安全技術セミナー

五月二十三日に第二回目となります安全技術セミナーを開催致しました。

当日は多くの会員の皆様に御参加頂き有難う御座いました。

また、お忙しい中、工場見学をさせて頂きました会員企業様にも重ねてお礼申し上げます。

セミナーにおきましては、多くの御質問を頂き、活発な意見交換が出来て、安全に仕事をする為に必要な知識を、さら

に広げられたものと思います。
　懇親会におきましても、清水先生並びに、木村准教授と色々な事柄についてお話が出来、実り多い懇親会になったと思います。有難う御座いました。

【講師】
独立行政法人　労働安全衛生総合研究所
機械システム安全研究グループ
清水　尚憲　様

参加者　十八名　（中津山　隆博）

◆セミナー ～デザインに潜む【粋】～

　平成二十六年九月二十六日に今年度の題目である　粋意気（いきいき）とした企業人のテーマのもと、セミナー『デザインに潜む【粋】』を行いました。講師に長岡造形大学学長の和田裕（ひろむ）様を講師にお迎えし、これまでご経験された事や体験談などを交えながら御講話頂きました。
　セミナーにおきましては建造物や車、移り変わる情景やそこにいる人々などの学長ご自身が感じられた視点から切り取った【粋】をお話頂きました。決して古いから【粋】、新しいからそうでないと言うわけではなく、作り手の感情を読み取ってこそ粋な思いが感じられる、和田学長の講話に参加者全員が耳を傾けておりました。
　また和田学長は、とある雑誌のインタビューの中で「良いデザインやいい商品と言うのは、すぐには分からない。ある程度くたびれてきて色々やっかいな事が出て来て、それでも『これ、何とかとっておきたい』と、ギリギリまで代えるのを止める様な愛情を持ってくれた時、初めて商品として成功だと思うのです。」とおっしゃられております。この学長のお言葉は我々モノづくりに携わる人間として永遠の目標であり、進むべき道なのではないでしょうか。今回の講話の内容を如何に自社に、または自身にフィードバックさせ、成長させることによって開かれた道の先に【粋】があるような気が致します。
　最後に、今回の内容は切り口が非常に難しい題目だったと思います。それにもかかわらず講演をご承諾してくださった和田学長様には大変感謝致しております。また、設営に携わった渉外委員の皆様、参加頂いた会員の皆様、セミナーを滞りなく運営出来ましたこと感謝申し上げます。有難うございました。

（山本　友紀）

◆豪技長岡ものづくりフェアー

　十一月八日と九日の二日間に渡り、アオーレ長岡にて開催された【豪技長岡ものづくりフェアー】に出展致しました。

　四月頃より、永井会長には「青研ロボ」の製作に力を注いで頂き、当日は、アルミ板金を用いた人型ペンホルダー作りを行い子供たちに組立の面白さを知ってもらいました。子供たちをはじめ、幅広い年齢層の方々のご参加がいただけました。一つのものをじっくりと作り上げ、組み立てをしている姿は、ものづくりの原点だと感じました。体験された方々には、一枚の平らなアルミ板金が形となって立体化していく面白みを感じていただけたのではないでしょうか。
　このフェアーでは、二日間で三百九十名の集客となりました。この事業を大盛況で終えることが出来たのは、会長の綿密な構想、渉外委員の方々の万全の事前準備、当日の参加者への速やかな対応など、皆様の協力があってこそだと思っています。大変感謝しております。また、会員企業、ＯＢ会員の方々まで皆様のご協力あっての成功となりましたことを改めて御礼申し上げます。
　鉄工組合様からはご支援をいただきました。この場を借りて御礼申し上げます。ありがとうございました。

（加藤　芳夫）

◆ハイブ長岡 プランター保守、点検

　平成二十五年度事業にて製作し、ハイブ長岡様へ納入致しましたプランターの、表面研磨を行ないました。全国植樹祭の式典が、ハイブ長岡様で行なわれることもありまして、正面玄関に設置されておりますプランターを、一台ずつ手作業で仕上げました。
　人手がかかる地味な作業ではありますが、皆さまのご協力により、無事終わることができました。また、当日はお気づきになられた来場様よりお声がけを頂くなど、一般の方々からも反響があり、充実した結果となったように思います。
　最後に、渉外委員会のみならず当日ご参加頂きました皆さま、またご援助頂きました皆さまに御礼申し上げます。

参加者　渉外委員会　（池田　一雄）

平成27年度　長岡鉄工業青年研究会組織図

直前会長　永井邦幸

会　長　高木繁樹

副会長　市川光
　　鳥越太郎

総務委員会　８名（担当副会長　市川光）
委員長　萩野浩
副委員長　田原裕巳
委員　小沼啓・酒井孝幸・長谷川孝
　　真島洋紀・南聡史・宮下玲子

研修委員会　７名（担当副会長　市川光）
委員長　阿部修平
副委員長　松田勇介
委員　加藤芳夫（兼）・倉品英行・反町惣夫
　　野本新太郎・吉原範宴

実行委員会　８名（担当副会長　市川光）
委員長　渡辺潤一郎
副委員長　七里大樹
委員　石田剛士・大竹啓之・小笠原昭範
　　門倉侑大・福島正浩・山口淳

まつり委員会　７名（担当副会長　鳥越太郎）
委員長　皆川政男
副委員長　橋本祐一
委員　富川和則・韮澤誠吾・福田敏行
　　矢尾板大樹・山村誠

渉外委員会　７名（担当副会長　鳥越太郎）
委員長　中津山隆博
副委員長　池田一雄
委員　大宮丈範・小杉祐介・清水貴裕
　　山﨑宣明（兼）・山本友紀

45周年準備委員会　２名（担当副会長　鳥越太郎）
委員長　加藤芳夫
副委員長　山﨑宣明

会　計　小林史幸

会計監査　永井宏明

祝　ご卒業

安藤学　㈱アンドウ
小林宏　㈲タスク
難波博繁　㈱難波製作所
古川高志　古川機工㈱
毛利聡一　㈲毛利製作所
（以上五名）

新入会員の紹介

平成二十七年度　四月入会

小杉祐介（こすぎ ゆうすけ）
㈱奉仕社
〒九四〇－〇〇一六
長岡市宝三－二－一
TEL〇二五八－二二－六一〇〇
FAX〇二五八－二二－六一〇一
平成元年十一月十三日生

南聡史（みなみ さとし）
㈱科学計器研究所
〒九四〇－〇〇二一
長岡市城岡三－二－二
TEL〇二五八－二四－〇六四六
FAX〇二五八－二四－五六八一
昭和五十七年二月二十二日生

清水貴裕（しみず たかひろ）
㈲清水プレス工業所
〒九四〇－〇八七四
長岡市永田三－八－四六
TEL〇二五八－二四－〇八七八
FAX〇二五八－二四－一七二三
昭和五十五年八月四日生

長谷川孝（はせがわ たかし）
㈱Syse
〒九四〇－二一二八
長岡市新産東町六八
TEL〇二五八－二一－〇二三二
FAX〇二五八－二一－〇二五三
昭和五十六年十月九日生

門倉侑大（かどくら ゆうた）
㈱Syse
〒九四〇－二一二八
長岡市新産東町六八
TEL〇二五八－二一－〇二三二
FAX〇二五八－二一－〇二五三
昭和五十七年十二月十日生

韮澤誠吾（にらさわ せいご）
飛鳥運輸㈱
〒九五四－〇一二四
長岡市中之島字根岸八四六－一
TEL〇二五八－六六－〇四一三
FAX〇二五八－六六－〇五四五
昭和五十五年三月二十五日生

福島正浩（ふくしま まさひろ）
㈲福島木型製作所
〒九四〇－〇〇一六
長岡市宝二－一－一
TEL〇二五八－二四－五一八〇
FAX〇二五八－二四－五一〇四
昭和五十二年五月四日生

平成二十六年度　四月以降入会

山口淳（やまぐち あつし）
㈱ヤマグチ機械
〒九四〇－一一〇一
長岡市南陽二－一〇一－一三
TEL〇二五八－二三－〇〇〇六
FAX〇二五八－二三－〇〇〇九
昭和五十六年一月二十日生